

「北上川から学ぶ、流域社会づくりへ」

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会委員

平山 健一

1 はじめに

北上川流域に於ける市民団体による流域連携の始まりは平成7年(1995)の北上川流域連携交流会の発足当時に遡ります。北上川が育てて来た流域の絆を活かした上下流交流は地域づくりの先駆例として注目されました。

それから20年の歳月が流れ、北上川流域全体を舞台にした広域的な活動はしばらくの間、休眠していましたが、平成25年3月、北上展勝地の軽石 昇さん等の呼びかけで「川のとも、舟のとも集い」が開かれました。この集まりが契機となり、久しぶりに流域各地から集まった活動団体や国・県等の行政の皆さんの熱い思いが一致して、平成28年度に民間を主体として行政も参画する「北上川流域圏フォーラム実行委員会」がスタートし、再び流域を視野にいたした活動が始まり2年目を迎えたところ です。

2 最近の北上川流域の変貌

この20年間に、北上川もその流域社会も大きな変貌を遂げました。治水事業については、流域全体を俯瞰して事業が進められて来ましたが、胆沢ダムが完成し、洪水常襲地とされる一関・平泉地区に建設中の一関遊水地も完成に近づいています。また高齢化社会の到来や最近の異常な集中豪雨の頻発に備えて新たな河川情報システムが構築され、堤防を越える出水を前提にした住民の避難体制の整備や日常の防災意識を高めるための努力続けられています。一方、北上川及びその支川における河道の整備率はまだ50%程度であり今後も着実な河川改修事業の進展

が期待されています。

最近のダムに対する人々の感じ方の変化には驚くばかりです。春先のダムからの放流や紅葉の映える秋のダム湖は観光の名所となって人々を引きつけています。戦後、次々に建設されたダムとその貯水池は、かつて環境破壊の元凶とされた時代もありましたが、いまや原風景になってしまったようです。ダムの上流地域と下流地域の関係者の深い思いに触れることもなくダムの存在を楽しむ姿に時代の移り変わりを感じます。ダムの本来の機能も、建設当時の社会状況も、建設に至る経緯も、建設の困難を克服した技術的な努力も、ダムの湖底に沈んだ水没者の生活も、語られることは稀になってしまふことは残念です。

河川環境については、自然環境への配慮が社会的な要請となり、様々な工事には環境影響評価が義務づけられ、水質保全のための規制も格段の進歩を遂げました。現在の北上川流域では、上流部の水源地域の森林の管理や川沿いの外来種の拡大や高水敷の陸地化等が気になる場所です。

一方、最近国土交通省が取り組み始めた「生態系ネットワーク推進協議会」による生態系保全のための推進組織の設置や自然環境のもつ価値を経済的な価値に数値化して評価しようとする「グリーン・インフラ」の考え方は自然環境の保全・向上にとって追い風となることが期待されています。

本来、自然環境の保全は人類社会の存続にとって普遍的な必要条件とされていますが、環境保全と経済的な効果を天秤にかけ、お金が儲からなければ環境保全が進まないという経済効率優先の現代社会のあり方には少し不安を感じています。

河川関係の活動で最近注目されるのは、従来の費用便益の範疇から一歩飛躍して、川が本来持っている水辺の雰囲気、生態系や、川の文化遺産等の魅力等によるストック効果を掘り起こし、より豊かで賑わ

いのある流域社会の形成に川を活用しようとする動きです。タンチョウやコウノリの自然観察の場の提供、流域の生態系等の個性に由来する物産品の開発、水辺空間を楽しむ川を向いた街づくり、舟運の復活を目玉にした賑わい場の創出などには、経済効果が期待でき、民間が主体となって進めるべき活動内容も多く今後の発展が大いに期待されるところです。

3 北上川流域圏の目標に向けての取組み

最近の北上川の動きを踏まえて進められている、我々の活動の概要について説明します。現在、活動の推進母体となっている「北上川流域圏フォーラム実行委員会」が主催した平成 27 年 10 月の「北上川流域圏フォーラム」(準備会)において活動目標を「流域の恵みが巡る、活気ある社会づくり」、「環境持続性を持った流域社会の実現」、「流域の歴史や文化を大切に、学びあう地域づくり」とすることが参加者全員の合意となりました。さらに今後の具体的取組みについては、個人・団体の情報収集・発信能力を高めるための「ホームページの構築」、官民の連携強化のための「北上川流域交流推進会議の定期的開催」、「流域マネジメントシステムの検討」について活動を進めることとしています。

これまでの活動の成果としては、流域の基礎情報を把握するために河川関係の 92 の市民団体の活動状況調査をまとめ、流域情報を提供するためにホームページ【<http://www.kitakamigawa.or.jp/>】を作成・運用しています。また平成 28 年 11 月に開催した「第 1 回北上川流域圏推進交流会議」では、市民団体からの活動報告、行政からの情報提供、参加者による意見交換等を行いながら参加者の交流によって、情報の共有と相互理解を進めると共に流域の活動団体の一体感を高める機会となりました。

さらに、平成 29 年 10 月には、舟運復活に対する最近の動向を踏まえて、盛岡で「舟運と川を活かした街づくり」をテーマにシンポジウムを開催しました。

活動は、まだ自らの体制づくりの第一歩を踏み出した段階ですが、今後、推進交流会議では河川環境

の改善に向けた推進手法等、川に関わる地域の諸課題について考える機会を提供すると共に、さらに活動への賛同者の中を広げながら市民のリーダーシップが期待されている「流域マネジメントシステムの構築」にも取り組んでいきたいと考えています。

4 あとがき

我々の活動は、母なる川、北上川から学び、その永い歴史の中で育まれてきた流域のつながりを大切にしたい水のイーハトーブをつくろうという活動でもあります。川を愛する皆様のご支援や若い仲間の新鮮な力が是非必要です。事務局宛のご連絡をお待ちしています。

またこの「川談義」コーナーは、平成 30 年 1 月より新たに設けられた意見交換の場です。沢山の皆様から自由な投稿をいただきますようお願い致します。

【参考資料】

- (1) [「志ある活動と先駆的ビジョン」、季刊「河川レビュー」\(SPRING/2008 suggestion \(新公論社\)\)](#)
- (2) [平成 27 年度「北上川流域圏フォーラム報告書」北上川流域圏フォーラム実行委員会](#)
- (3) [平成 28 年度「北上川流域圏推進交流会議報告書」北上川流域圏フォーラム実行委員会](#)

(※インターネットに接続したパソコン等で、上記参考資料をクリックすると閲覧・ダウンロードできます。)